

路ヲ示シ便宜ヲ與フル爲ニ候處其設立ノ位置等一般ニ承知不致且海圖上ヘモ掲載無之ルハ却テ航海者ニ危害ヲ與フル基ト相成實ニ不容易儀ニ候條以來右様ノ儀無之標厚ク注意可致就テハ今後燈臺或浮標標等私設ノ儀伺出候節ハ別紙ノ廉々詳細取調可差出尤在來ノ分モ右同標取調至急可届出此旨相違候事

(別紙)

燈臺(浮標)(標)設置調書(在來ノ分ナレハ)(御届書)

何燈臺

設置ノ地名及國郡字

凡北緯

凡東經

燈臺形質

燈明光色

光達區界

凡光達距離

基礎上燈火ノ高さ

水面上燈火ノ高さ

點燈ノ時期

何浮標

位置

浮標形質

十六年工部省第一號
燈臺及浮標設置調書

大低潮ノ深
何標
位置
標形質
大低潮標ノ高
右燈臺(浮標)(標)今般當府(縣)士族(平民)何區(郡)何町(村)何番地住何某新設願出ニ付取調候處相違無之候也(在來ノ分ナレハ)右著去ル何年何月當府(縣)士族(平民)何區(郡)何町(村)何番地住何某新設(何年何月何日)ヨリ點火(仕候)ニ付此段及御届候也
明治何年何月何日
何府(縣)

工部省

御中

告示

(當城ノ布達ノ職ニ關シテモトス)

○第二十號 (十二月六日檢附)

山梨縣下猿橋並愛媛縣下大洲へ電信分局ヲ設置シ本月十五日ヨリ開局音信料ノ儀ハ左ノ通ニ候條此旨告示候事

一猿橋分局ヨリ隣局八王子及甲府へノ和文音信料金六錢歐文ハ金貳拾五錢ヲ拂フヘシ

一東京其他各分局ヨリ猿橋へノ和歐文音信料ハ甲府ニ同シ

○
一大洲分局ヨリ隣局松山及八幡濱へノ和文音信料金六錢歐文ハ金貳拾五錢ヲ拂フヘシ

十八年第八號布達
十九年助金第八號
ニ依リ消滅

一東京其他各分局ヨリ大洲へノ和歐文音信料ハ八幡激ニ同シ

司法省 布達

第三十六號布達ニ
依リ消滅

第八十號布達ニ
依リ消滅

○甲第一號 (二月十五日)

是迄吟味願ト稱スル所ヲ受理致來リシ處右ハ廢止候條自今被害者ヨリ犯罪ヲ訴フモノハ糾問判
事檢事又ハ警察官ニ告訴可致此旨布達候事

○甲第二號 (二月二十四日 輪原附)

司法省明治十三年甲第一號布達代官人規則第四條第四項左ノ通改正候條此旨布達候事

第四 懲役禁獄一年以上ノ刑ニ處ヒラレタル者

○甲第三號 (三月四日 輪原附)

刑事民事ノ裁判上ニ係リ司法省へ對シ歎願或ハ再審願ト唱へ書面差出候者往々有之候處右ハ固ヨ
リ法律ニ戻リタルモノニ付自今指令ニ及ハサルハ勿論却下ノ手續ヲモ不致候條此旨布達候事

○甲第四號 (八月五日 輪原附)

從來人民ヨリ郡區長及戸長ノ職務上ニ對スル詞訟ハ各上等裁判所ニ於テ受理審判致シ候處自今地
方裁判所ニ於テ受理審判候條此旨布達候事

但受理審判等ノ手續ハ是迄各上等裁判所ニ於テ取扱ヒ來候都合ニ可準候事

○甲第五號 (十月十日)

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシムル體モ可有之候條此
旨布達候事

○甲第六號 (十月二十日)

十六年司法省丁第
九號布達ニ
依リ消滅

二十三年法律第
四十八號
第二十八號
第二十八號

明治十四年一月三月八月十月 司法省 布達 甲第一號 甲第二號 甲第三號 甲第四號 甲第五號 甲第六號

一 憲法志料	第一編	貳拾冊
一 德川禁令考	自第一編	拾四冊
一 佛國治罪法略論	至第三篇	壹冊
一 同 民法釋要	完	壹冊
一 同 政法論	自第二編	四冊
一 同 訴訟法原論	至第三編	四冊
一 同 民法提要	自第一編	貳冊
一 同 常用法	至第四編	三冊
一 同 縣會法詳說	至第五編	壹冊
一 醫家斷訟學	自第四編	貳冊
一 伊太利商法	自第三十六編	壹冊
一 獨乙民法通論	至第四十二編	壹冊
一 佛國刑法詳說	第一	壹冊
一 英國律法要訣	上下	貳冊
一 類聚法規	自第四編	貳冊
一 情供證據裁判錄	至第六編	三冊
○甲第七號 (十二月二日)	現行上	壹冊
○甲第八號 (十二月二日)	下行目錄	

治罪法第三百十五條裁判言渡ノ謄本又ハ其拔書ヲ求ムル者ハ其用紙一枚金三錢ノ費用ヲ上納スル儀ト可心得此旨布達候事

丁第三十一號連
五年前法律內
二號連丁第九號連
參看

大審院諸裁判所所屬代官人規則別紙之通相定候條此旨布達候事

(別紙)

所屬代官人規則
第一條 治罪法中所屬代官人ト稱スルハ大審院及ヒ各裁判所所在ノ地ニ住居スル免許代官人ヲ云
第二條 裁判官ノ職權ヲ以テ選任シタル代官人辯護人ハ正當ノ事由ヲ證明スルニアラサレハ之ヲ
辭スルコトヲ得ス
第三條 代官又ハ辯護受任中代官免許滿期ニ至リ引續營業セス又ハ廢業スト雖モ該事件終結ニ至
ルマテ其代官辯護ヲ擔當ス可シ
第四條 代官又ハ辯護受任中ハ他ノ訴訟事件ヲ以テ其任ヲ闕クコトヲ得ス
第五條 裁判官ノ職權ヲ以テ代官人辯護人ヲ選任シタル場合ニ於テモ其謝金ハ被告人之ヲ擔當ス
可シ
總テ謝金ニ付テハ出訴スルコトヲ許サス

達 (乙第一號乃至乙第五十號連)
人相賣並即人捕縛ノ件略ス

○丙第一號 (二月十日 給附)

大審院 諸裁判所
各檢事 各府縣 東京
明治九年四月 司法省第四十八號連司法警察假規則中左ノ通改正候條此旨相達候事
第三條中
第二項 警察使並地方警部
第三章 警察使並警部

第三十六號布告ニ
依リ消滅

明治十四年一月 司法省 布達 丙第一號

第三十六號布告ニ依リ消滅

同上

第八條ヨリ第十一條ニ至ル各條中警部ノ上ニ「警察使又ハ」ノ五字ヲ加フ

大審院 諸裁判所
各檢事 フサル各縣

明治十三年月十二 丁第廿六號ヲ以テ相違候司法省職制中檢事或檢事補ノ職制ヲ被定候處明治十年月二 丁第十四號達中檢事ノ章程ハ現存ノ儀ト可心得此旨爲念相違候事

檢事 フサル各縣

○丙第三號 (二月十五日 檢部府)
檢事ノ上告ニ係ル文書正本副本差出方ノ儀ニ付司法省明治十年月六 丙第十三號明治十二年月十二 丙第十七號ヲ以テ相違置候趣モ有之候處自今正本ノ外副本ハ差出ニ不及候條此旨更ニ相違候事

但司法省明治九年月三 第三十號達ノ旨ニ依リ開申スヘキ文書モ本文同様可相心得事

大審院 諸裁判所
檢事 府縣

○丙第四號 (二月十六日 檢部府)
司法省明治十年月十二 丙第二十二號達ヲ以テ司法省附隨代官人ヲ世々候儀相違置候處自今廢止候條 此旨相違候事

大審院 諸裁判所
檢事 各縣

○丙第五號 (二月二十二日)
今般附隨代官人相廢シ候處代官任掛リノ事件ニ限り代人トシテ之ヲ取扱フ儀ハ苦シカラサル旨元 附隨代官人ヲリヤ者ヘ相違候ニ付此旨心得ノ爲ノ相違候事

大審院 諸裁判所 各檢事
警視廳 檢事フサル各縣

○丙第六號 (三月四日 檢部府)
贓物等官ニ於テ送致中途又ハ領置中遺失及ヒ盜難ニ罹リタル件賠償處分ノ儀ニ付甲號ノ通岩手縣

九〇三

ヨリ伺出太政官ヘ伺ノ上乙號ノ通及指令候條之レニ抵觸スル從前ノ指令ハ取消候爲心得此旨相違 候事

甲號

領置中ノ金品盜難等ニ罹リタル處分方ノ儀ニ付伺

一 窃盜等ノ贓金品及ヒ罪囚ノ所持金ヲ官廳ニテ領置中盜難ニ罹リ其盜犯捕ニ就クモ資力ナキ時ハ 固ヨリ事主ノ損失ニ歸ス可キ筋無之ニ付官之ヲ辨償ス可キ哉

一 前條盜難ニ罹リタルノ形跡明瞭ニシテ盜犯未タ捕ニ就カヌ又ハ該金品ヲ送致途中遺失シタルニ 其證據顯然シテ未タ得者ノ無之如キハ其監守者ハ相當ノ處分ニ及ヒ事主ヘハ官ヨリ之ヲ辨償ス 可キ哉

右處分方ニ疑議ヲ生シ候ニ付至急御指令有之度此段相伺候也

岩手縣令島 惟精

乙號

指令 三月三日

兩條共伺ノ通

○丙第七號 (四月二十三日 檢部府)

大審院 諸裁判所 檢事
警視廳 府縣 東京府

事主ノ有無ニ因テ贓物ヲ匿處スル儀ニ付舊兵庫縣大書記官原保太郎ヨリ甲號ノ通伺出候ニ付乙號 ノ通太政官ヘ相伺候處丙號ノ通御裁令相成候條爲心得此旨相違候事

甲號

明治十四年四月 司法省 達 丙第七號

贓金ヲ以テ購求セシ物品處分ノ儀伺
 爰ニ盜犯甲其捕拿所持物品出所ヲ問尋スルニ事主乙某方ニ於テ盜ミシ贓金ヲ以テ購求セシ品ナリ
 ト明供シ該犯拘置中逃走百方搜索スルモ踪跡ヲ不得然ルハ贓金ニテ購求セシ物品事主乙某ハ贓
 價ノ爲メ警察官ニ於テ下シ渡可然乎若シ本件事主分明ナラサルトキハ官沒ス可キ哉右差掛タル儀
 有之ニ付伺出候條至急伺分ノ御指揮有之度候也

兵庫縣令森岡昌純代理

兵庫縣大書記官原 保太郎

明治十三年十一月二日

司法卿田中不二麻呂殿

乙號

贓金ヲ以テ購求セシ物品處分ノ儀ニ付伺

兵庫縣大書記官原保太郎ヨリ別紙ノ通盜犯其窃取シタル金ヲ以テ購求セシ物品ハ事主アレハ警察
 官限り下渡置キ事主不明ナルトキハ官沒スヘキヤノ儀伺出候右ハ盜金ヲ以テ購求セシ物品ハ即
 チ正職現在ト同視ス可キ者ニ付事主アレハ事主ニ還給ヒサルヲ得ス若シ盜犯逃亡スレハ其贓品ノ
 ニ裁判所へ送付スルニ及ハサルニ付警察官限り假ニ下渡置キ追テ盜犯捕ニ就テ際其品物代價ヲ詳
 記シ盜犯始末書ト共ニ該裁判所へ送付シ若シ事主不明ナルトキハ一年間其品物ヲ領置シ仍ホ事
 主知レサレハ官沒シテ可然哉右ハ法律上成文無之ニ付此段相伺候條早々御指揮有之度候也

明治十四年一月十四日

太政大臣三條實美殿

司法卿田中不二麻呂

丙號

伺ノ趣ハ三年ヲ經テ仍ホ事主知レサレハ官沒スヘシ

第三十六號布告

○丙第八號 (五月六日 輪傳)

但罪證ニ必要ナラサル物件及久シキニ難堪モノハ時限ニ拘ラス公賣シ其代金ヲ領置スルヲ得
 十八

各裁判所 各檢事
警視廳 府 縣

同上

○丙第九號 (五月十七日)

大審院 諸裁判所 各檢事

今般左ノ各裁判所へ檢事ヲ置候條此旨爲心得相違候事

- 名古屋裁判所 熊谷裁判所
- 松本裁判所 松山裁判所
- 廣島裁判所 水戸裁判所
- 松江裁判所 弘前裁判所
- 静岡裁判所 高知裁判所
- 熊本裁判所 福島裁判所
- 鹿児島裁判所

第三十六號布告

○丙第十號 (五月十九日 輪傳)

勳位ヲ有スル者處刑ノ儀ニ付甲號ノ通太政官へ相伺候處乙號ノ通御裁令有之候條爲心得此旨相違
 候事

大審院 諸裁判所 各檢事
ヲサル各縣

甲號

明治十四年五月 司法省 通 丙第八號 丙第九號 丙第十號

勳七等以上ノ者處分ノ儀ニ付伺

先般勳八等以下非役平民ノ輩賭博ノ私罪ヲ犯ストキ所分ノ儀相伺御指令ノ旨有之候處勳七等以上非役罪右同様ノ罪ヲ犯ストキ所分ノ儀未タ明例無之候條右ハ別紙明治十一年十二月二日御指令ノ旨有之候得共是ハ追捕ノ所分ニシテ刑ノ所分ニアラス依テ今後準勅發判ヲ分タス總テ士族ニ準シテ所分可然哉此段仰御裁令候也

明治十三年六月一日

司法卿田中不二啓

太政大臣三條實美殿

乙號 伺ノ通明治十三年七月一日

二十三年法律第二十九號ニ依リ消滅

府 縣

○丙第十一號 (六月四日) 詞訟審判上必要ニ付其應立郡區役所及戶長役場所管之帳簿等寫取方各裁判所ヨリ及照會候節ハ右寫本ニ正寫之體トシテ該廳所之印ヲ捺シ同所ハ差廻候様可取計事

十六年司法省丙第二十九號達書

但寫本多數ニテ費用相掛候節ハ其照會ヲ發シタル裁判所ヨリ仕拂候儀ト相心得且詞訟事件ニ依リ元帳ヲ要スルハ差廻方可取計此旨豫テ郡區役所及戶長役場ハ相達可申事

○丙第十二號 (九月二十二日) 今般第四十八號ヲ以テ違警罪裁判ハ當分三府五港市區ヲ除クノ外府縣警察署又ハ警察分署ニ於テ裁判可致旨御布告相成候ニ付テハ各警察署並ニ警察分署所在名稱及ヒ管轄區畫左ノ離形通取調可届出此旨相達候事

何警察署 巡警部 何部 何區何町何村 何警察署何分署 同前

第三十六號布告

○丙第十三號 (十月十日)

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ不得止場合ニ於テハ巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシメ不苦候條此旨相達候事

但代理ヲ命スヘキ巡查ノ姓名ハ豫メ其地方廳罪並違警罪裁判所へ通牒致シ置候儀ト心得ヘシ

大審院 裁判所 警視廳

東京裁判所

京都裁判所

水更津區裁判所

園部區裁判所

大坂裁判所

田邊區裁判所

奈良區裁判所

津山區裁判所

神戶裁判所

福江區裁判所

豐岡區裁判所

大田區裁判所

洲本區裁判所

白河區裁判所

長崎裁判所

福島裁判所

平戶區裁判所

仙臺裁判所

弘前裁判所

名古屋區裁判所

八戶區裁判所

名古屋區裁判所

仙臺裁判所

名古屋區裁判所

警井區裁判所

名古屋區裁判所

名古屋區裁判所

名古屋區裁判所

山田區裁判所
松江裁判所
米子區裁判所
高知裁判所
中村區裁判所
熊本裁判所
天草區裁判所
水戸裁判所
土浦區裁判所
宇都宮區裁判所

高山區裁判所
廣島裁判所
尾道區裁判所
協町區裁判所

○丙第十五號 (十二月五日)
警視廳 府縣 東京ヲ
治罪法實施ノ上ハ豫審判事檢證及ヒ物件差押ノ事件ニ付急進ヲ要スル場合直ニ巡查ヲ同行シ又ハ所在ノ巡查ヲ使用スル備モ可有之候條豫テ可達此旨相達候事

○丙第十六號 (十二月五日)
大審院 裁判所 警視廳
府縣 東京ヲ
治罪法中犯人體人等押印ノ條々實印無之者ニ限リ從來ノ慣例ニ依リ押印爲致候儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○丙第十七號 (十二月十九日)
警視廳 府縣 東京ヲ
治罪法令狀樣式別紙丁第廿八號ノ通大審院裁判所ニ相達候條其旨可相心得且司法警察官ニ於テ令狀ヲ發スル時ハ右ニ照準シテ取計ヲ可シ此旨相達候事(別紙ハ下ニ載ス)

○丙第十八號 (十二月十九日)
府縣

刑事裁判ノ宣告犯人本貫へ通知ノ罰裁判所へ別紙丁第三十三號ノ通相達候條此旨爲心得相達候事(別紙ハ下ニ載ス)

十五年司法省丙第
二十三號達ニ依リ
十八年同丙第九號
外表廢止

○丙第十九號 (十二月十九日)
警視廳 府縣 東京ヲ
表ハ治罪法第五十二條ニ從ヒ差出ス儀ト可心得此旨相達候事(別紙略ス)

○丙第二十號 (十二月二十八日)
大審院 裁判所 警視廳
府縣 東京ヲ
新法實施後ハ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ罰金刑第六十二條ノ令狀ハ總テ共刑ノ執行ヲ爲ス地ノ始審裁判所檢事ヨリ發スル備ト可心得此旨相達候事

十五年司法省丁第
十九號達ニ依リ

○丁第一號 (三月三日)
大審院 諸裁判所
明治十二年丁第十二號ヲ以テ相達候各廳新聞條例及讞錄律犯者表本年ヨリ三箇月毎ニ取調翌月十日限り可差出尤書式之儀ハ總テ從前之通可相心得此旨相達候事

十八年大政官第
十三號達ニ依リ

○丁第二號 (三月十四日)
大審院 諸裁判所
明治十三年民刑表差出方延期申出ノ向キ有之候處右ハ製表差出候條精々取調來ル四月十日限り無相達可差出此旨相達候事

○丁第三號 (四月十九日)
各裁判所
銃砲取締規則違犯者ヨリ沒收ノ銃器彈藥ノ内些少或ハ廢品等ニテ適宜處分方陸軍省協議ノ未現品賣却代價同省へ廻附ノ處右ハ本月八日附ヲ以テ陸軍卿ヨリ廻附ニ不及旨通達有之候條以來雜收入願金ノ内へ編入本省へ納附可取計此旨相達候事

明治十四年十二月 司法省 達 丙第十九號 西第二十二號
丁第一號 丁第二號 丁第三號

○丁第四號 (五月九日)

清國駐留領事並朝鮮國駐留管理官裁判權限改正ノ儀ニ付別紙ノ通大政官ヨリ御達相成候條此旨爲心得相違候事

(別紙)

大審院 上等裁判所
長崎裁判所

別紙外務省伺清國駐留領事並朝鮮國駐留管理官へ裁判權限ヲ附與スルノ儀朱批ノ通及指令候條爲心得此旨相違候事

明治十年八月二十八日

司法省
太政大臣三條實美

(別紙)

清國駐留領事並朝鮮國駐留管理官へ裁判權限委任之儀伺

清國各港駐留領事並朝鮮國釜山駐留管理官へ御國人民訴訟裁判並罪犯處分之權限委任狀ノ儀昨九年甲第四百四十六號ヲ以何出本年一月八日御指令ノ通及委任置候處右條款中我國民相互ノ訴訟金額百圓以下ハ直ニ之ヲ裁判シ百圓以上ハ上等裁判所ニ送致スヘト有之候處右條款ノ程度相限リ訴訟受理不受理之別有之候テハ海外遠距之地裁判之際差支不少趣領事ヨリ申出候向有之就テハ別紙之通改正委任及ヒ度此段相伺候條至急御指令有之度尤御允裁之上ハ共旨司法省へ御達有之度候也

十年八月一日

太政大臣三條實美殿

外務卿寺島宗則

伺、趣開屆候條付箋朱書之通改正可致事

明治十年八月二十八日

原文

一彼我人民交渉ノ民事ヲ除ク外我國民相互ノ訴訟金額百圓以下ハ直ニ之ヲ裁判シ百圓以上ハ上等裁判所ニ送致スヘシ

改正案

一彼我人民交渉ノ民事及ヒ我國民相互ノ訴訟ハ金額ノ多少ニ拘ラス直ニ之ヲ裁判スヘシ

付箋朱書

一某國民原告ニテ我國民ニ對スル民事ノ訴訟及ヒ我國民相互民事ノ訴訟ハ金額ノ多少ニ拘ラス直ニ之ヲ裁判スヘシ

○丁第五號 (五月十八日)

大審院 諸裁判所

領事條例中改正ニ付別紙ノ通御達有之候條此旨相違候事

(別紙)

司法省

領事條例中別紙ノ通改正候條此旨相違候事

明治十四年五月十三日

左大臣 熾仁親王

本文ノ別紙ハ第四十號公達ト同シ于茲略ス

○丁第六號 (五月二十八日)

大審院 諸裁判所 各檢事

司法卿ヨリ大審院諸裁判所各檢事へノ達書中前行廳名記載方ノ儀是迄其事件ニ據リ大審院諸裁判所各檢事ト各自ニ記載致シ來リ候處自今專ラ判事ノミニ關シ或ハ檢事ノミニ關スル事件ト雖モ都テ大審院又ハ裁判所ト記シ候條此旨相違候事

十六年司法省丁第
三十五號
九號ニ依リ消滅

十六年司法省丁第
二十七號
取消

十五年司法省丁第
十五號
六號第四十八號
看

明治十四年六月七日 司法省 達 丁第七號 丁第八號 丁第九號

○丁第七號 (六月四日)

大審院 裁判所

裁判上諸役所之帳簿入用之節ハ可成必用之分ヲ寫取候儀ト相心得右寫本ニ正寫之體トシテ各役所
之印ヲ捺シ差出候様照會シ紙丁多數ヲ要スルハ共費用仕拂可申事

但可成寫本ニテ可取計書ニ候ヘハ裁判事件ニ依リ元帳ヲ要スル節ハ取寄方照會可致尤遠隔之地
ニテ運送不便ナルハ其地最寄之裁判所ヘ右取寄方及調方共依願可致事

○丁第八號 (七月十六日)

裁判所

後備軍編入ノ者郡里ニ在テ罪ヲ犯シタルトキハ檢事ヨリ裁判官ニ求刑スル前ニ於テ一應本人所轄
ノ領事或ハ營所ニ照會可致此旨相違候事

○丁第九號 (八月五日)

地方裁判所

人民ヨリ郡區長ニ對スル罰鍰取扱方今般甲第四號ヲ以テ布達候ニ付テハ是迄上等裁判所並ニ大
審院ヘ相違置候諸違書別紙六通廻付候條此旨相心得ヘキ事

(別紙)
第五號

各上等裁判所

人民ヨリ院省使府縣ニ對スル訴訟ニ付明治七年第二十四號ヲ以テ相違置候處右ハ行政司法ノ裁
判權限ニ於テ猶混淆ヲ免カレサル儀モ有之候ニ付違テ御規則相立候迄右ニ關スル訴訟ハ總テ本
省ヘ伺出指令濟ノ上受理可致候此旨相違候事

明治九年一月二十二日

司法卿大木喬任

丁第二十四號

大審院 各上等裁判所

行政裁判云々ノ備本年五月八日丁第十三號ヲ以テ相違候處右ハ取消候條自今行政裁判ニ關スル
分ハ官府ヨリ償還スヘキ條理アルト否トニ拘ハラズ總テ裁判見込案ヲ以テ具上申稟スヘキ儀ト

可心得事

但司法裁判ニ關スル者ハ七年第二十四號當省達第三條ノ通タルヘキ事

明治十一年六月二十九日

司法卿大木喬任

番外達

大審院 各上等裁判所

官廳ヲ相手取り訴へ出ルモノハ從前政府トノ相懸ル節ハ官衙ヲ指定シ候條可致此旨相違候
事

明治十一年十一月六日

司法卿大木喬任

番外達

人民ヨリ院省使府縣ニ對スル訴訟ニ付同書差出候條該件訴狀或ハ判決案等正本一通差出候向有
之候處自今都テ寫登通相添ヘ可差出候此旨相違候事

明治十二年五月二十七日

司法卿大木喬任

丁第十五號

各上等裁判所

人民ヨリ院省使府等ニ係ル訴訟ニ付指令濟審理中解散致シ候モノ又ハ司法裁判ニ歸シ官府ノ勝訴
訟トナリシモノ有之節ハ其都度可届出此旨相違候事

但シ既ニ本文ノ件アリテ未ダ届出サルモノハ取懸メ届出ツヘシ

明治十二年六月十四日

司法卿大木喬任

丁第十九號

各上等裁判所

人民ヨリ院省使府縣等ニ對スル訴訟ニシテ太政官ノ裁令ヲ經テ裁決セシムルモノハ自今本省ヨ
リ其旨ヲ附記シテ指令ニ及候條其裁判所ニ於テモ右申渡ヲ爲セシ時ハ其都度其趣(何事ヨリ何事
件ハ何事何月何日太政官ノ裁令ヲ經テ裁決セシムルモノ)大審院ヘ通報ニ及置シヘシ此旨相違候事

明治十四年八月 司法省 達 丁第九號

但本文ノ件ニ就テハ本人不服ヲ唱へ上告ノ届ヲ差出ストモ別ニ大審院へ書類遞送スルニ及ハス候事

明治十二年七月二十九日

司法卿大木喬任

○丁第十號 (八月十日)

大審院 裁判所 府縣

不二麻呂儀賜暇旅行中司法大輔細川潤次郎へ省務代理ヲ囑シ候條此旨相違候事

大審院 裁判所

○丁第十一號 (八月二十二日)

警視廳 府縣

今般地方裁判所各支廳へ檢事ヲ置候條此旨爲心得相違候事

○丁第十二號 (九月十二日)

大審院 裁判所 府縣

不二麻呂賜暇旅行中司法大輔細川潤次郎ニ省務代理ヲ囑シ候處一昨十日歸京候ニ付右代理ヲ解キ候條此旨相違候事

○丁第十三號 (九月二十二日)

大審院 裁判所

陸海軍軍人東京府下ニ於テ違式鞋遊ノ罪ヲ犯シタル者處分ノ儀ニ付太政官ヨリ別紙ノ通御達有之候條此旨爲心得相違候事

司法省 大審院 裁判所

(別紙)

陸海軍軍人東京府下ニ於テ違式鞋遊ノ罪ヲ犯シタル者ハ憲兵條例第八條ニ據リ憲兵ニ於テ處分シ其追徴シタル科料ハ憲兵隊長ヨリ其省へ交付セシメ候條此旨相違候事

明治十四年九月十五日

太政大臣三條實美

○丁第十四號 (九月二十六日)

大審院 裁判所

明治十年丁第五拾六號ヲ以テ相違候訟獄審理表離形ハ相廢シ更ニ別紙之通一年度一表ニ取纏メ翌年二月限リ可差出此旨相違候事(別紙略ス)

但シ十三年度分入用ニ付本年十二月中取調可差出候事

地方裁判所

○丁第十五號 (九月二十六日)

大審院 裁判所

明治十一年丁第拾四號ヲ以テ相違候勸解表離形ハ相廢シ更ニ別紙ノ通一年度一表ニ取纏メ翌年二月限可差出此旨相違候事(別紙略ス)

大審院 裁判所

但シ十三年度分入用ニ付本年十二月中取調可差出候事

大審院 裁判所

○丁第十六號 (十月八日)

大審院 裁判所

裁判所順次別紙ノ通相定候條此旨相違候事

(別紙)

大審院

控訴裁判所

東京 大阪

長崎 函館

東京 横濱

名古屋 宮城

東京 横濱

廣島

水更津 栃水

新瀨 浦和

上田 長野

千葉 熊谷

相川

水戸 甲府

以上東京控訴裁判所管内

静岡 土浦

滋松

新瀨田

松本

長岡

長岡

新瀨田

新瀨田

新瀨田

新瀨田

新瀨田

新瀨田

新瀨田

新瀨田

新瀨田

新瀨田

新瀨田

新瀨田

新瀨田

新瀨田

新瀨田

新瀨田

新瀨田

新瀨田

新瀨田

十五年前司法省丁第... 十九年前司法省丁第... 十九年前司法省丁第... 十九年前司法省丁第...

十六年前司法省丁第... 十九年前司法省丁第... 十九年前司法省丁第... 十九年前司法省丁第...

京都	大阪	神戶	堺	奈良	和歌山	姫路
大津	豊岡	彦根	宮津	洲本	口邊	徳島
岡山	七尾	高知	松山	中村	宇和島	金澤
富山	以上大阪控訴裁判所管内	福岡	鹿兒島	宮崎	福江	中津
長崎	佐賀	平戸	鹿兒島	宮崎	福江	中津
大分	天草	嚴原	鹿兒島	宮崎	福江	中津
函館	弘前	八戸	安濃津	山田	高山	
名古屋	岐阜	岡崎	安濃津	山田	高山	
以上名古屋控訴裁判所管内						
仙臺	磐井	福島	米澤	若松	山形	盛岡
白川	平	大曲	秋田	酒田	山形	盛岡
以上宮城控訴裁判所管内						
西郷	尾道	山口	濱田	松江	米子	鳥取
以上廣島控訴裁判所管内						
治安裁判所						
日本橋	京橋	下谷	淺草	麴町	四ッ谷	芝

本郷	本所	品川	横濱	小田原	八王子	浦和
千葉	八日市場	熊谷	大宮	土浦	下妻	水更津
栃水	宇都宮	前橋	高崎	太田	水戸	甲府
谷村	静岡	沼津	下田	上田	岩村田	長野
飯山	高田	糸魚川	新潟	掛川	松本	飯田
上野	大町	福島	新潟	長岡	柏崎	六日町
新發田	村上	相川				
以上東京控訴裁判所管内						
上京	下京	伏見	中島	本田	天王寺	神戸
明石	篠山	堺	五條	奈良	和歌山	姫路
大津	園部	福知山	彦根	宮津	洲本	田邊
徳島	岡山	高梁	玉島	豊岡	津山	脇田
高松	丸龜	福井	大野	敦賀	小浜	金澤
小松	高岡	富山	魚津	七尾	輪島	高知
松山	大洲	西條	中村	宇和島		
以上大阪控訴裁判所管内						
長崎	島原	佐賀	唐津	平戸	福岡	久留米
小倉	熊本	山鹿	八代	人吉	福岡	中津
豆田	大分	佐伯	竹田	杵築	天草	嚴原
鹿兒島	水引	大島	宮崎	都城	延岡	

函館	福山	江刺	壽都	弘前	青森	五所河原
八戸	以上函館控訴裁判所管内					
名古屋	熱田	一ノ宮	岐阜	大垣	御嵩	岡崎
豊橋	安濃津	四日市	上野	山田	高山	
以上名古屋控訴裁判所管内						
仙臺	古川	石巻	大河原	磐井	福島	中村
米澤	若松	山形	新庄	盛岡	宮古	白川
平	大曲	秋田	本庄	能代	酒田	
以上宮城控訴裁判所管内						
廣島	三次	尾道	山口	岩國	赤間關	萩
濱田	松江	今町	米子	鳥取	西郷	
以上廣島控訴裁判所管内						
○丁第十七號 (十月十日)				大審院 裁判所		
司法警察事務上時宜ニ依リ巡查シテ警部ノ代理ヲ爲サシメ候儀本年常省丙第十三號ヲ以テ相違候條此旨可相心得事				大審院 裁判所		
○丁第十八號 (十月二十日)						
書記局其他訟廷等ノ掌務心得書別紙之通相違候事						
(別紙)						

十五年司法省丁第五十五號達ヲ以テ第一條改正

十七年第五號布告ニ依リ消滅

書記局其他訟廷等ノ掌務心得書						
第一條 書記局諸般ノ事務ハ各員輪轉之ヲ執リ豫メ其主掌ヲ定メス						
(改正) 第一條 書記局諸般ノ事務ハ豫メ其主掌ヲ定メ或ハ之ヲ定メサル等實際ノ便宜ニ從フ						
第二條 訟廷ノ取締被告人控訴ノ看守ハ巡查獄卒等ヲシテ之ヲ掌ラシムヘシ						
第三條 訴訟口辯ハ雇員ヲ以テ之ニ充テ訴訟人呼入其他訟廷ニ關スル雜事ノ使用ハ小使ヲ以テ之ニ充ツヘシ						
第四條 門候ヲ置クト否トハ其屬ノ便宜ニ任ス若シ之ヲ置クトキハ雇員又ハ小使ヲ以テ之ヲ掌ラシムヘシ						
但東京各裁判所ハ此限ニ在ラス						
第五條 宿直ハ等外吏員雇員等ニテ之ヲ務メシメ在宅常番ニ退廳後ハ判任官ニテ順次之ヲ務メシム						
但東京各裁判所ハ此限ニ在ラス						
○丁第十九號 (十月二十七日)				大審院 裁判所		
裁許用封印紙代價徵收ノ儀ニ付甲號ノ通仙臺裁判所ヨリ伺出乙號ノ通及指令候間之レニ抵觸スル從前ノ指令ハ取消候條此旨爲心得相違候事						
甲號						
仙臺裁判所伺						
第一條 裁判所ニ於テ使用スル呼出用封印紙及ヒ裁許用封印紙ノ代價ハ裁判後三日内由者ヨリ徵收ス可キ旨即チ訴訟用封印紙規則第十二條ノ明文ニ從フ勿論ナル處茲ニ其由者タル者該代價ヲ辨納セズ失踪セル者アランニ他ニ家族ナキ者ノ如キハ其失踪者歸來スル迄之ヲ未納ノ金額ト爲シ置ク						

可キ歟然ル時ハ其際限ナキノ歸來ヲ期スルニ當リ實際計算上ノ不都合ヲ覺ニ故ニ如此者ハ一時之ヲ減損部中ニ組込ミ置キ進テ本八歸來スルニ際リ徵收ス可キ事ト爲シ可ナラン乎

第二條 又茲ニ代價上納ノ違キ受ケタル者三日内辨納ヲ爲サハル時ハ裁判所ニ於テハ直ニ其曲者ニ對シ財産公賣辨納ノ儀ヲ言渡シ即チ其財産ハ郡區役所ニ照會差押ヘ彼ノ裁判執行ノ例ニ據リ直ニ其一部ノ物件ヲ公賣シ徵收スル者ト爲シ可ナラン乎

第三條 前條ノ曲者若シ資力ナキ者ニ係ル時ハ其子孫ニ至ル迄身代持直次第完納スルトノ證書ヲ徵シ置シ可キ乎果シテ然ラハ該不納代價モ亦前々條ノ通一時減損ノ部中ニ組込ミ置ク可ク乎
右相伺候條仰御指令候也

乙號

指令

伺ノ趣ハ左ノ通

第一條 曲者失踪スルトハ直ニ其遺留財産ニ對シ取立ツ可シ遺留財産ナキトハ官ノ損失トス

第二條 伺ノ通

第三條 官ノ損失トス

○丁第二十號 (十月二十八日)

大審院 裁判所

憲兵隊將校以下警察上ニ係ル職務上ノ犯罪處分方ニ付太政官ヨリ別紙ノ通御達有之候條爲心得此旨相達候事

(別紙)

司法省

別紙陸軍省伺憲兵隊將校以下警察上ニ係ル職務上犯罪處分ノ儀朱書ノ通及指令候條爲心得此旨相

達候事

明治十四年十月十八日

太政大臣三條實美

憲兵隊將校以下警察上ニ係ル職務上犯罪處分ノ儀ニ付伺

憲兵隊將校以下輕犯アリ其軍紀ニ關スル者ハ該條例第十九條ニ據リ陸軍懲罰令ヲ以處分可致之處警察ニ係ル職務上ノ過誤失錯ハ兼職之三省ニ於テ直ニ處分可相成哉又ハ身分ヲ管轄スル上ハ悉皆於當省懲治可致儀ニ有之候哉若シ然ル時ハ何レノ規則ニヨリ如何處分可致哉右ハ職務實施ノ期追進差追候間至急御指令有之度此段相伺候也

明治十四年九月廿六日

陸軍卿大山 巖

太政大臣三條實美殿

朱書

伺之趣警察ノ職務ニシテ事ノ軍紀ニ關セサル過誤失錯ト雖モ當分ノ内於其省陸軍懲罰令ニ照シ處分可致事

明治十四年十月十八日

大審院 裁判所

○丁第二十一號 (十一月十五日)
法律上判事檢事書記等署名捺印ヲ要スル節相用フヘキ印章ハ左ノ雛形ニ照シ各自彫刻シ費用ハ官費支拂ニ相立候儀ト心得此旨相達候事

官名	勅任	方九分	曲尺
氏名	奏任	方七分	曲尺
	判任	方六分	曲尺

二十三年法律第六
號三依り消滅

主任へ引渡ス儀ト可心得此旨相違候事

大審院 裁判所

○丁第二十六號 (十二月五日)
使丁規則別冊之通相定候條明治十五年一月一日ヨリ施行致スヘク此旨相違候事

(別冊)

使丁規則

- 第一條 各裁判所書記局ハ刑民事事ニ關スル召喚狀其他書類ヲ送達セシムル爲メ其請負人ヲ定メ之ヲ使丁取締トス
- 使丁取締ハ一人トス但場所ニ因リ二人以上ヲ命スルコトアル可シ
- 第二條 使丁ハ使丁取締之ヲ選ビ其氏名ヲ書記局ニ届出歸札ヲ受ルモノトス
- 使丁ノ人員ハ使丁取締適宜之ヲ定メ書記局ノ許可ヲ受ク可シ
- 第三條 使丁取締ハ送達ノ事ニ付總テ其實ニ任スルモノトス
- 第四條 使丁取締ハ常ニ裁判所ニ在テ送達ノ事ヲ取扱フ可シ
- 第五條 使丁ハ送達ヲ爲ス時裁判所ノ鑑札ヲ帶行ス可シ
- 第六條 送達ヲ爲スニハ其法律規則ニ從フ可シ
- 第七條 使丁取締及ヒ使丁ハ訴訟ニ付代人トナリテ訟廷ニ出ルコトヲ許サス
- 第八條 送達ノ事ニ關シ他人ニ損害ヲ被ラシメタル時ハ使丁取締其價ヲ擔當スヘシ
- 但使丁ノ過失懈怠ニ由ル時ハ使丁取締ハ之ニ對シ更ニ其價ヲ求ムルコトヲ得
- 第九條 送達賃錢ハ書類ノ大小ニ拘ハラス一通ニ付一里五錢以下トス
- 賃錢ノ定限ハ使丁取締之ヲ申立書記局之ヲ決シ且送達書ニ其賃錢高ヲ附記ス可シ
- 第十條 賃錢ノ定限ハ其取扱所ニ貼示シ三日以上新聞紙ニ掲載シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ公告ス可シ

十五年司法官達
第三十四號送達書
第九條改正

十五年司法官達
第三十四號送達書
第十一條改正

第十一條 刑事ニ付テハ送達賃錢ハ其送達ヲ受ルモノヨリ之ヲ拂置ク可シ

但左ノ場合ニ於テハ書記局ヨリ之ヲ拂置ク可シ

- 一 檢察官又ハ裁判官ヨリ呼出ス證人鑑定人通事ノ呼出狀
- 二 檢察官ノ控訴申立ヲ被告人ヘノ通知及ヒ呼出狀
- 三 檢察官ヨリ被告人ヘ送達スル上告申立書及ヒ趣意書

第十二條 刑事附帶ノ私訴及ヒ民事ニ付テハ送達賃錢ハ總テ其送達ヲ請求スル者ヨリ之ヲ拂フ可シ

第十三條 送達賃錢ニ付テハ訴訟ハ其書類ヲ覆シタル裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

第十四條 使丁取締ハ書類送達ヲ正實ニ取扱フ可キ旨ノ書面ヲ書記局ニ差出ス可シ

第十五條 使丁取締及ヒ使丁此規則ニ違背シタル時裁判所書記局ハ使丁取締ニ左ノ條件中ニテ相當ノ言渡ヲ爲スヘシ

一 貳拾圓以下ノ違約金ヲ納メシムルコト

二 解職セシムル事

三 事情重キ者ハ違約金ヲ納メ解職セシムルコト

第十六條 使丁取締タルニハ其裁判所所在地ニ家屋ヲ有シ滿二十一歳以上ノ者ニシテ書記局ノ試験ヲ經ルコトヲ要ス

使丁取締タルニハ身元保證トシテ金五拾圓以上ノ價格アル公債證券地券又ハ銀行其他官許アル株券證券ヲ書記局ニ納ム可シ

但此保證金ハ解職ノ時下戻ス可シ

第十七條 試験ハ書記二名以上ニテ之ヲ爲ス可シ

十五年司法官達
九號送達書

但書記不足ナルトキハ履キ以テ之ニ充ツヘシ

賦驗ノ科目ハ左ノ如シ

一 使丁規則

二 請負郡村ノ地名又ハ里數

三 普通書簡ノ書讀

第十八條 實決ノ刑ニ處セラレシル者及ヒ身代限ノ處分ヲ受ケ未ク辨償ヲ終ラサル者ハ使丁取締

又ハ使丁タルコトヲ許サズ

二十三年法律第六

○丁第二十七號 (十二月九日)

大審院 裁判所

本年第五十四號公布ニ依リ治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開クルハ其管轄輕罪裁判所ノ名稱ヲ用

ヒ其印ヲ捺シ某治安裁判所ニ於テスルコトヲ附記スヘシ左ニ雛形相添ヘ此旨相達候事

書式雛形

於入王子治安裁判所

橫濱輕罪裁判所

印章雛形

橫濱輕罪

裁判所

○丁第二十八號 (十二月十二日)

大審院 裁判所

治罪法中ニ掲ケタル送達書呼出狀召喚狀勾引狀勾留狀收監狀及宣誓書式別紙ノ通相定候條右ニ照準ス可シ此旨相達候事

十八年司法書丁第二十八號送達書式ニ依リ用スル紙ヲ半紙ニ換用スルヲ相マシム

(別紙)

用紙美濃ノ類

送達書

輪廓寸法凡 縦七寸五分 横五寸四分

(印章並ニ「中ノ文字」ハ朱)

「送達スヘキ書名」

「登録」

「同」

「登通」

右使丁ヲ以テ「何府縣下何町又ハ何國

何郡何村何番地何某」送達セシムル

者也

明治 年 月

何裁判所
日
所之印

「何裁判所

書記「氏名印」

右致送達候也

使丁「氏名印」

割印

送達書

品ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人ヘ渡シ
一葉ヲ書記局ヘ還納ス可シ

明治十四年十二月 司法書 送 丁第二十八號 (送達書式)

九二七

「送達スヘキ書名」 「同」 「登録」 「普通」 右使丁ヲ以テ「何府縣下何町又ハ何國 何郡何村何番地何某」送達セシムル 者也 明治 年 月 何裁判 所之日 何裁判 所之日 「何裁判所」 書記「氏名印」		受取人ノ署名 捺印若シ能ハ サル時ハ其事 由 送達シタル月 日時 送達シタル場 所 親屬人若ク ハ戸長ハ書類 ナ流シタル時 ハ其事由
呼出狀 「住所身分職業」 「氏名」 右「云々」ノ事件ニ付證人トシテ相尋ル 儀有之來ル「何月日時何」所ニ出頭可致 者也 但同日時出頭セサルニ於テハ罰金ヲ 言渡シ且勾引狀ヲ發スルコトアル可シ		此呼出狀ハ出頭ノ節 書記局ニ送ス可シ 受取人ノ署名 捺印若シ能ハ サル時ハ其事 由 送達シタル月 日時
押印 此呼出狀ハ出頭ノ節 書記局ニ送ス可シ 貼テ申附シテ一葉ヲ受取人へ渡シ 一葉ヲ書記局へ送納スヘシ		送達シタル場 所 親屬人若ク ハ戸長ニ渡シ マル時ハ其事 由 右之通取扱候也 明治 年 月 日 使丁「氏名印」

「送達スヘキ書名」 「同」 「登録」 「普通」 右使丁ヲ以テ「何府縣下何町又ハ何國 何郡何村何番地何某」送達セシムル 者也 明治 年 月 何裁判 所之日 何裁判 所之日 「何裁判所」 書記「氏名印」		受取人ノ署名 捺印若シ能ハ サル時ハ其事 由 送達シタル月 日時 送達シタル場 所 親屬人若ク ハ戸長ニ渡シ マル時ハ其事 由
呼出狀 「住所身分職業」 「氏名」 右「云々」ノ事件ニ付證人トシテ相尋ル 儀有之來ル「何月日時何」所ニ出頭可致 者也 但同日時出頭セサルニ於テハ罰金ヲ 言渡シ且勾引狀ヲ發スルコトアル可シ		此呼出狀ハ出頭ノ節 書記局ニ送ス可シ 貼テ申附シテ一葉ヲ受取人へ渡シ 一葉ヲ書記局へ送納スヘシ
押印 此呼出狀ハ出頭ノ節 書記局ニ送ス可シ 貼テ申附シテ一葉ヲ受取人へ渡シ 一葉ヲ書記局へ送納スヘシ		送達シタル場 所 親屬人若ク ハ戸長ニ渡シ マル時ハ其事 由 右之通取扱候也 明治 年 月 日 使丁「氏名印」

明治 年 月		何裁判 日何時 所之印		右之通取扱候也	
「何裁判所 豫審判事 書記「氏名印」		「氏名印」		明治 年 月 日 他丁「氏名印」	
召喚狀					
「住所身分職業」 「氏名」					
右「云々」ノ事件ニ付訊問ノ筋有之「何 月日時」當裁判所ニ出頭可致者也					
明治 年 月 日何時 何裁判所之印					
豫審判事「氏名印」					
受取人ノ署名 捺印若シ能ハ サル時ハ其事 由		送達シタル月 日時		送達シタル場 所	
親屬人若クハ 月長へ書類 ヲ渡シタル時 ハ其事由		送達シタル月 日時		送達シタル場 所	
右之通取扱候也					

明治 年 月 日		何裁判 日何時 所之印		右之通取扱候也	
「何裁判所 豫審判事 書記「氏名印」		「氏名印」		明治 年 月 日 他丁「氏名印」	
召喚狀					
「住所身分職業」 「氏名」					
右「云々」ノ事件ニ付訊問ノ筋有之「何 月日時」當裁判所ニ出頭可致者也					
明治 年 月 日何時 何裁判所之印					
豫審判事「氏名印」					
受取人ノ署名 捺印若シ能ハ サル時ハ其事 由		送達シタル月 日時		送達シタル場 所	
親屬人若クハ 月長へ書類 ヲ渡シタル時 ハ其事由		送達シタル月 日時		送達シタル場 所	
右之通取扱候也					

<p>檢事官印</p> <p>勾引狀</p> <p>「任所身分職業」</p> <p>「氏名」</p> <p>「若シ氏名分別ナラサルハ」</p> <p>右「云々」ノ事件ニ付訊問ノ筋有之當裁 判所へ拘引ス可キ者也 但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス 可シ</p> <p>明治 年 月 日 何裁判所之印</p> <p>豫審判事 「氏名印」 書記 「氏名印」</p>		<p>右之通取扱候也</p> <p>明治 年 月 日</p> <p>「巡查又ハ憲兵氏名印」</p>	
<p>勿引シタル破 告人ノ署名捺 印シタルハ其 執行シタル月 日執行シタル 場所</p>	<p>執行ノ手續 「被告入ニ正木ヲ示シ附本ヲ下付ス」 シタル時ハ其</p>	<p>ル時ハ其事由 執行シタル月 日執行シタル 場所</p>	<p>執行ノ手續 「被告入ニ正木ヲ示シ附本ヲ下付ス」 シタル時ハ其</p>

割印

是リ申附シテ一葉ヲ受取人へ渡シ一葉ヲ書記局へ還納スヘシ

<p>檢事官印</p> <p>勾引狀</p> <p>「任所身分職業」</p> <p>「氏名」</p> <p>「若シ氏名分別ナラサルハ」</p> <p>右「云々」ノ事件ニ付訊問ノ筋有之當裁 判所へ拘引ス可キ者也 但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス 可シ</p> <p>明治 年 月 日 何裁判所之印</p> <p>豫審判事 「氏名印」 書記 「氏名印」</p>		<p>右之通取扱候也</p> <p>明治 年 月 日</p> <p>「巡查又ハ憲兵氏名印」</p>	
<p>勿引シタル破 告人ノ署名捺 印シタルハ其 執行シタル月 日執行シタル 場所</p>	<p>執行ノ手續 「被告入ニ正木ヲ示シ附本ヲ下付ス」 シタル時ハ其</p>	<p>ル時ハ其事由 執行シタル月 日執行シタル 場所</p>	<p>執行ノ手續 「被告入ニ正木ヲ示シ附本ヲ下付ス」 シタル時ハ其</p>

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治 年 月 日 何時 何裁判所之印

豫審判事 「氏名印」

書記 「氏名印」

右之通取扱候也

明治 年 月 日 何時

「巡查又ハ憲兵氏名印」

割印

凡テ申斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ一葉ヲ世肥局へ還納スヘシ

検事官印

勾留状

「住所身分職業」 「氏名」

「若シ氏名分明ナラサルレバ」 「姓名」

右「云々」ノ事件ニ付治罪法第百二十六條ノ規則ニ從ヒ「何所」監倉へ勾留ス可キ者也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治 年 月 日 何時 何裁判所之印

右之通取扱候也

「何裁判所」

豫審判事 「氏名印」

書記 「氏名印」

明治 年 月 日 何時

「巡查又ハ憲兵氏名印」

「住所身分職業」 「氏名」

「若シ氏名分明ナラサルレバ」 「姓名」

右「云々」ノ事件ニ付取調ヲ爲シタル處本罪刑法第「何」條ニ該ル可キ者ト思料ス依テ檢事ノ意見ヲ聽キ「何所」監倉ニ收監ス可キ者也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治 年 月 日 何時 何裁判所之印

豫審判事 「氏名印」

書記 「氏名印」

右之通取扱候也

明治 年 月 日 何時

收監狀

收監シタル被 告人ノ署名捺 印ハ其ノ事由 ハ其ノ時ハ其 執行シタル 月日時ニシテ 執行ノ手続 執行ノ手續 執行ノ手續 執行ノ手續 執行ノ手續	「被告人ニ正本ヲ示シ附本ヲ下付ス」
--	-------------------

書記「氏名印」		「巡查又ハ憲兵氏名印」	
割印			
是ヲ申斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ 一葉ヲ掛配局へ還納スヘシ			
検事官印	收監狀		
「住所身分職業」 「○未逮捕ニ付逮捕○未丁年ニ付逮捕等」氏名 「○自署ニ付逮捕○再犯ニ付加罪」 「若シ氏名分明ナラサルハ」 「密偵機密等」		收監シタル被 告人ノ署名捺 印者ノ能ハサ ル時ハ其罪山 執行シタル 月日時 執行シタル 場所ノ手續 執行ノ手続 山シタル時ハ其 山シタル時ハ其 事ハサル時ハ其	被 告 人 ニ 正 本 ヲ 示 シ 給 本 下 付 ス
右「云々」ノ事件ニ付取調ヲ爲シタル處 本罪刑法第「何條」ニ該ル可キ者ト思料 ス依テ檢事ノ意見ヲ聽キ「何所」監倉ニ 收監ス可キ者也 但本人潛匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス 可シ	明治年月日 何裁判 所日時 所之印	右之通取扱候也 明治年月日時 「巡查又ハ憲兵氏名印」	

十九年勅令第四十
六號
明治十三年法律第

宣誓書		裁判所
「何々」ノ事件ニ付愛憎畏懼ノ心ナシ總テ正 實ニ「 <small>通</small> 」 「 <small>定</small> 」ス可キヲ誓フ		何々 控訴 裁 判 所
明治年月日 何裁判 所日時 所之印	宣誓人「氏名印」 <small>鑑定人</small>	裁判所 宣誓人「氏名印」
○丁第二十九號 (十二月十三日) 裁判所 郡區長へ公文往復ノ儀ニ付明治十三年本省丁第十一號ヲ以テ相違置候旨有之處來明治十五年一 月一日以後ハ都テ裁判所ノ名ヲ以テ往復致スヘシ此旨相違候事 ○丁第三十號 (十二月十四日) 裁判所 裁判所印章ノ儀來明治十五年一月一日以後左ノ通改定候條各應ニ於テ調製シ印鑑ヲ以テ可届出此 旨相違候事		
印章離形 何々 控訴 裁 判 所 分五寸壹尺曲カ 字體ハ篆書ヲ用ヒ認易キヲ要ス且文字ノ數ニ據リ或ハ「之印」等ノ字ヲ刻スルモ妨ケ ナシ		

○丁第三十一號 (十二月十五日)

裁判所

本年甲第七號布達裁判言渡ノ原本又ハ被替ヲ求ムル者代價ノ備無資力ニシテ上納スル能ハサル者ニ限リ無代價ニテ下渡スモ不苦儀ト可心得此旨相達候事

○丁第三十二號 (十二月十七日)

大審院 裁判所

常省ヨリ大審院裁判所へノ達書中其事件ニ據リ裁判所ニ於テ所長限リ之ヲ留置(特ニ裁判所長ニ宛テ)檢事ノ同覽ニ付セサル向モ有之候テハ不都合ニ候條都テ無遺漏同覽候様致スヘシ右ハ本年常省丁第六號達ノ趣モ有之候得共猶又爲心得此旨相達候事

○丁第三十三號 (十二月十九日)

裁判所

刑部裁判言渡ヲ犯人ノ本籍へ通知シ及ヒ犯人前科取調ノ備是迄區々相成居候處來明治十五年一月ヨリ左ノ通知可心得此旨相達候事

刑部裁判言渡アリタルハ治罪法第四百六十四條ニ掲シル既決犯罪表寫ヲ犯人本籍ノ地ノ輕罪裁判所檢事ニ送致ス可シ右送致ヲ受タル檢事ハ其旨ヲ犯人本籍ノ地ノ戶長ニ通知シ該表ハイロハ標號ニ從ヒ區別編纂致置可シ

犯人ノ前科取調ヲ要スルルハ犯人本籍ノ地ノ輕罪裁判所檢事ニ照會シ檢事ハ編纂致置タル既決犯罪表寫ヲ送致ス可シ(別紙既決犯罪表略略)

○丁第三十四號 (十二月十九日)

大審院 裁判所

治罪法第五十二條第六十八條第七十六條第八十二條第四百六十四條表式別紙之通知定候條右ニ照準シテ調成ス可シ此旨相達候事(別紙略)

但明治十年丙第十七號違犯罪未決件數表丁第六十二號違犯罪糾問表ハ來十五年一月一日ヨリ廢止候事

十九年刑部省令
第六號

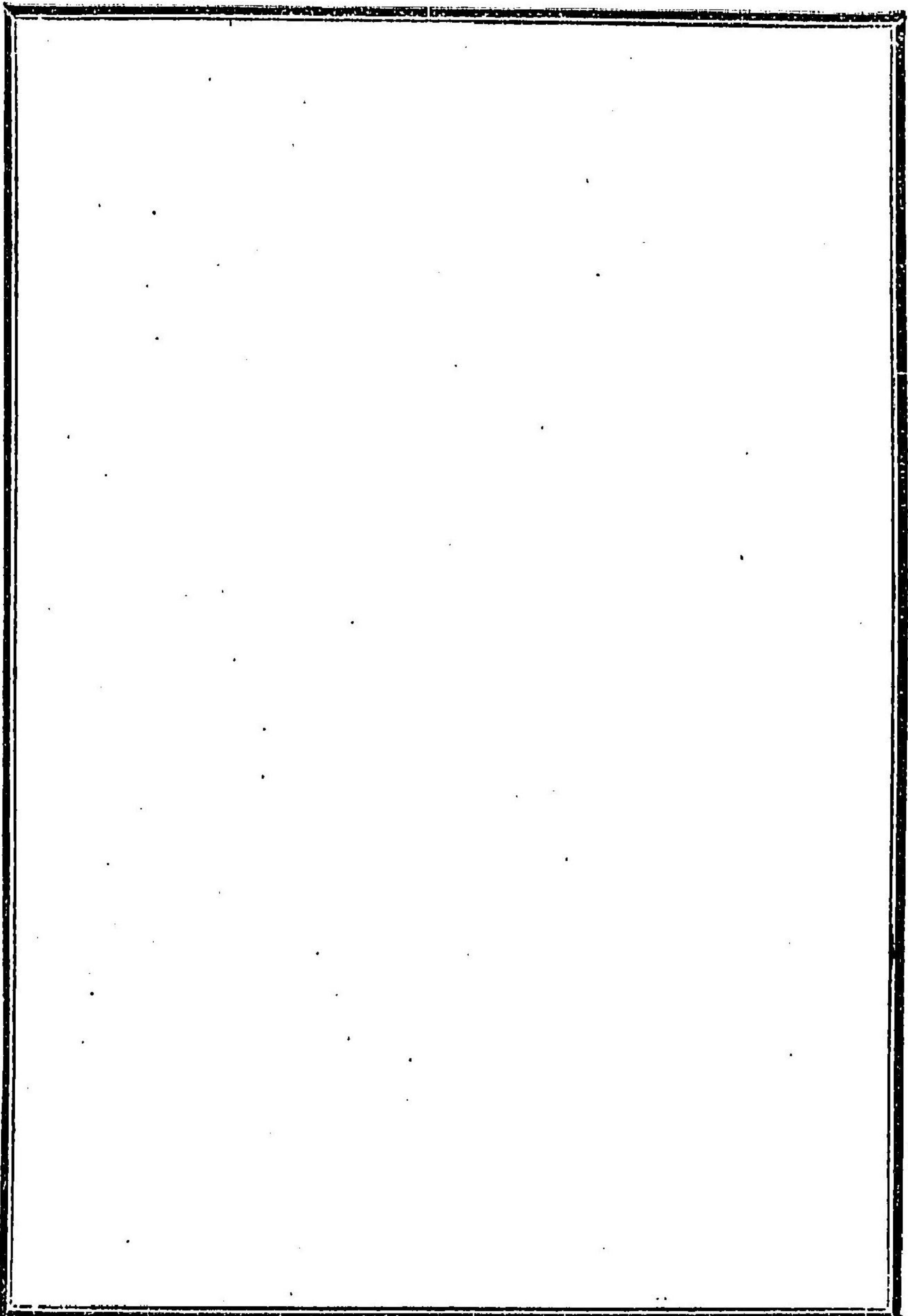
十五年刑部省令
第三號
十五年刑部省令
第四號
十五年刑部省令
第五號
十五年刑部省令
第六號
十五年刑部省令
第七號
十五年刑部省令
第八號
十五年刑部省令
第九號
十五年刑部省令
第十號
十五年刑部省令
第十一號
十五年刑部省令
第十二號
十五年刑部省令
第十三號
十五年刑部省令
第十四號
十五年刑部省令
第十五號
十五年刑部省令
第十六號
十五年刑部省令
第十七號
十五年刑部省令
第十八號
十五年刑部省令
第十九號
十五年刑部省令
第二十號
十五年刑部省令
第二十一號
十五年刑部省令
第二十二號
十五年刑部省令
第二十三號
十五年刑部省令
第二十四號
十五年刑部省令
第二十五號
十五年刑部省令
第二十六號
十五年刑部省令
第二十七號
十五年刑部省令
第二十八號
十五年刑部省令
第二十九號
十五年刑部省令
第三十號
十五年刑部省令
第三十一號
十五年刑部省令
第三十二號
十五年刑部省令
第三十三號
十五年刑部省令
第三十四號
十五年刑部省令
第三十五號
十五年刑部省令
第三十六號
十五年刑部省令
第三十七號
十五年刑部省令
第三十八號
十五年刑部省令
第三十九號
十五年刑部省令
第四十號
十五年刑部省令
第四十一號
十五年刑部省令
第四十二號
十五年刑部省令
第四十三號
十五年刑部省令
第四十四號
十五年刑部省令
第四十五號
十五年刑部省令
第四十六號
十五年刑部省令
第四十七號
十五年刑部省令
第四十八號
十五年刑部省令
第四十九號
十五年刑部省令
第五十號
十五年刑部省令
第五十一號
十五年刑部省令
第五十二號
十五年刑部省令
第五十三號
十五年刑部省令
第五十四號
十五年刑部省令
第五十五號
十五年刑部省令
第五十六號
十五年刑部省令
第五十七號
十五年刑部省令
第五十八號
十五年刑部省令
第五十九號
十五年刑部省令
第六十號
十五年刑部省令
第六十一號
十五年刑部省令
第六十二號
十五年刑部省令
第六十三號
十五年刑部省令
第六十四號
十五年刑部省令
第六十五號
十五年刑部省令
第六十六號
十五年刑部省令
第六十七號
十五年刑部省令
第六十八號
十五年刑部省令
第六十九號
十五年刑部省令
第七十號
十五年刑部省令
第七十一號
十五年刑部省令
第七十二號
十五年刑部省令
第七十三號
十五年刑部省令
第七十四號
十五年刑部省令
第七十五號
十五年刑部省令
第七十六號
十五年刑部省令
第七十七號
十五年刑部省令
第七十八號
十五年刑部省令
第七十九號
十五年刑部省令
第八十號
十五年刑部省令
第八十一號
十五年刑部省令
第八十二號
十五年刑部省令
第八十三號
十五年刑部省令
第八十四號
十五年刑部省令
第八十五號
十五年刑部省令
第八十六號
十五年刑部省令
第八十七號
十五年刑部省令
第八十八號
十五年刑部省令
第八十九號
十五年刑部省令
第九十號
十五年刑部省令
第九十一號
十五年刑部省令
第九十二號
十五年刑部省令
第九十三號
十五年刑部省令
第九十四號
十五年刑部省令
第九十五號
十五年刑部省令
第九十六號
十五年刑部省令
第九十七號
十五年刑部省令
第九十八號
十五年刑部省令
第九十九號
十五年刑部省令
第一百號
十五年刑部省令

十八年九月七日
刑部省令
第三號

○丁第三十五號 (十二月二十四日)

大審院 裁判所

常省刊行ノ書籍是迄本廳へ三部支區廳ニ壹部相渡來候處明治十五年一月ヨリ各廳ニ備本トシテ壹部ツ、相渡候餘ハ去ル明治十年丁第八十八號達ノ通知可心得候此旨相達候事



官内省
布達

○甲第一號 (十一月十五日)

河水久澄

右明治十五年一月御歌會始御題ニ候條此旨布達候事
但別紙書式ニ照準一月十日迄ニ御進致スヘキ事

(別紙)

料紙ハ檀紙奉書杉原紙ヲ用ユヘシ

但遠地郵送ノ分ハ美濃紙薄葉ノ類ヲ用ユルモ苦シカラズ

草	脈	豎
但五ツ折		
四句	初句	御題
五句	二句	名
	三句	

裏面書式
某府下某國某郡某町住
士族又ハ平民
苗字 名
官位勲等アル者ハ
苗字上ニ記載スヘシ

達

○乙第一號 (二月十九日 輪原附)

府 縣 沖繩縣

古來諸王ニテ奉祀ノ子孫無之方々(賜姓又ハ親王直下ノ有無ニ拘ラス)墳墓ハ自今總テ 皇子御墓ニ準シ取扱候條各管内ニ於テ該墳墓現存ノ向ハ地方傳説等詳細取調繪圖面相添可申出此旨相達候事

○乙第二號 (二月三十一日 輪原附)

府 縣

陵堂葛堂陵丁墓丁之報神官及教導職兼務之儀ハ不相成候條此旨相達候事

○乙第三號 (五月二日 輪原附)

府 縣

陵堂葛堂陵丁墓丁之報神官及教導職兼務之儀ハ不相成候條此旨相達候事
○乙第四號 (六月六日 輪原附)

府 縣

過ル十二年二月非役有位帶勳者轉居並死亡等ノ節ハ常人或ハ相續人ヨリ居方ノ義式部寮ヨリ相達候處往々無届ノ者有之不都合不少候條自今有位者及帶勳者ハ在役非役ニ不拘轉居改姓名及他管下へ寄留本管へ歸著ハ常人ヨリ死亡者ハ郡區長ニテ取調本廳ヲ經テ同寮へ可届出様各管下へ無誤可相達此旨相達候事

○乙第五號 (七月二十七日 輪原附)

新年紀元天長節賀表書式自今別紙之通被改候條此段及御達候也

一官省院警視廳東京府奏任官以上他所出張或ハ在勤ノ向並開拓使府縣奏任官以上ハ賀表書式ノ通

乙第三號 達 依リ消滅
七年 改定 依リ消滅
十九號 達 依リ消滅
十七年 改定 依リ消滅

二十年 宮内省 達
三號 達 依リ消滅
九年 達 依リ消滅
十二年 宮内省 達
三號 達 依リ消滅

十九年 宮内省 達
十二號 達 依リ消滅
正

相認メ其屬へ差出シ其屬長官太政官中檢査院計兩院ハ添書ヲ以テ上ルヘシ

但使府縣奏任官以上在京中祝節ニ當リ參朝拜賀スル者及海軍武官奏任以上外國派出並内國航海ノ艦船浦留港以外ニ碇泊シ其艦中ニテ奉祝ノ禮ヲ行フ者ハ賀表ヲ上ルニ及ハス浦留横須賀

横濱品川等ニ碇泊ノ者ハ式ノ如ク賀表ヲ上ル可シ

一判任官ハ其屬ニ參贊シ其屬長官書式ノ通相認メ上ルヘシ陸軍判任武官ニテ隊付ノ者ハ該隊長參贊ヲ受ケ其名刺ヲ取廻メ所管長官ヨリ陸軍省へ差出シ陸軍判任武官ヨリ書式ノ如ク認メ上ルヘシ

但官省院警視廳東京府ノ判任官他所出張及在勤ノ向ハ其屬長官宛太政官中檢査院計兩院ハ其宛陸軍判任武官隊付ノ者ハ該ヲ以テ賀表ヲ差出ス可シ各領事及露所其他各地ニ在ル陸軍下士

在京ノ節ハ陸軍省へ開拓使判任官在京ノ節ハ出張屬へ各地方廳判任官在京ノ節ハ内務省へ參

賀ス可シ其屬ニ於テハ書式ノ通相認メ上ルルコト本文ニ同シ海軍判任武官航海中祝節ニ當ルハ

奏任武官ノ例ニ准ス

一神官奏任以上在京外ノ節ハ第一條ニ准ス其判任官ハ其長官奏任以上ナル時ハ長官ニテ參贊ヲ受ケ長官ヨリ書式ノ通相認メ内務省へ差出シ若シ長官判任ナル時ハ一同直ニ内務省へ賀表ヲ差出シ同省ニテハ書式ノ通相認メ上ル可シ

但在京ノ節ハ第一條第二條ノ但書ニ准ス

一敬尊職六級以上在京外ノ節ハ第一條ニ准ス其七級以下ハ神道並諸宗共在京人員ノ内ヨリ每級總代一名ツ、内務省へ參贊シ同省ニテハ書式ノ通認メ上ル可シ

一非役有位華族西京住居並寄留ノ輩ハ部長分局ヲ經テ上ル可シ

但判任官奏職ノ輩ハ非役同様ト心得ヘシ

一帶勳有位者御用掛冠等ノ名義ニテ官廳ニ使用セラル、輩ハ明治十一年第三十六號布告非役ノ例

明治十四年七月 宮内省 達 乙第五號 九四三

十七年 宮内省 乙
十一號 達 依リ消滅
乙第六號 達 依リ消滅

十七年宮内省之第一
一號達ヲ以テ一
項追加

ニ准ス
一陸軍非職武官或後備軍職員ニシテ在東京府外ノ地ニ各其所管領事ヲ經テ陸軍省へ差出候上第一
條ノ例ニ准スヘシ
料紙ハ大奉書ヲ用ユ
郵送ノ分ハ美濃紙滷菜等ヲ用ユルモ妨ナン

勅任官賀表書式

年月日	官位勅苗字名	隨奉祝 新奉祝 紀元節 天皇節
-----	--------	--------------------------

奏任官同

年月日	官位勅苗字名	隨奉祝 新奉祝
-----	--------	------------

判任官參賀長官言上書式

年月日	官苗字名	右一同 左一同 參賀相受此段及言上候 也
-----	------	-------------------------------

判任官中有位帶勳者書式

年月日	官苗字名	一等勳正七位勅苗字名 一等勳正七位勅苗字名 一等勳正七位勅苗字名 一等勳正七位勅苗字名 二等勳正七位勅苗字名 二等勳正七位勅苗字名
-----	------	--

同等有位者ヲ以テ上席トシ同
位者ハ坐敷者ヲ以テ上席トス無位
帶勳者ハ仍任日ノ前後ニ從フ

退職後從六位以上勳六等已上賀表書式

年月日	官位勅苗字名	隨奉祝 新奉祝
-----	--------	------------

上賀表書式
官名ノ月書ニ退職後從等ノ字ヲ書ス

非役從六位已上賀表書式

年月日	位勅苗字名	隨奉祝 新奉祝
-----	-------	------------

同勳六等已上同

同從六位以上勳六等已上同
正七位以下ニテ勳六等已上ヲ帶シ
從六位以上ニテ勳七等以下ヲ帶セ
ル者亦此式ヲ用ヒ位勳共ニ書ス

添書式

年月日	勳苗字名	階級	備考
年月日	位勳苗字名	階級	備考

非役正七位以下勳七等以下參照言上式

位勳共ニ有スル輩ハ叙位ノ先後ニ從ヒ勳ノミノ者ハ勳等ノ次第ニ從ヒ有位者ノ後ニ從ス

正七位勳七等苗字名

式部	御中
----	----

本書宜御執奏可被下
候以上
年月日 官苗字名

十五年宮内省乙第六號

年月日	地方長官苗字名	式部	御中
-----	---------	----	----

正七位勳八等苗字名
正七位勳七等苗字名
從九位苗字名
勳七等苗字名
勳八等苗字名
右一同ハ參照相受此段及官上候也

○乙第六號 (十二月二十二日 輪附)

本年七月當省造表書式中第五項在、通改正候條此旨相違候事

第五項

一有位華族東京府外ニ住居並寄留ノ輩ハ部長局ヲ經テ上ル可シ但判任官以下奉職ノ輩ハ本文同條ト心得ヘシ

○乙第七號 (十二月二十二日)

來明治十五年新年式別冊之通被仰出候條此段及御違候也

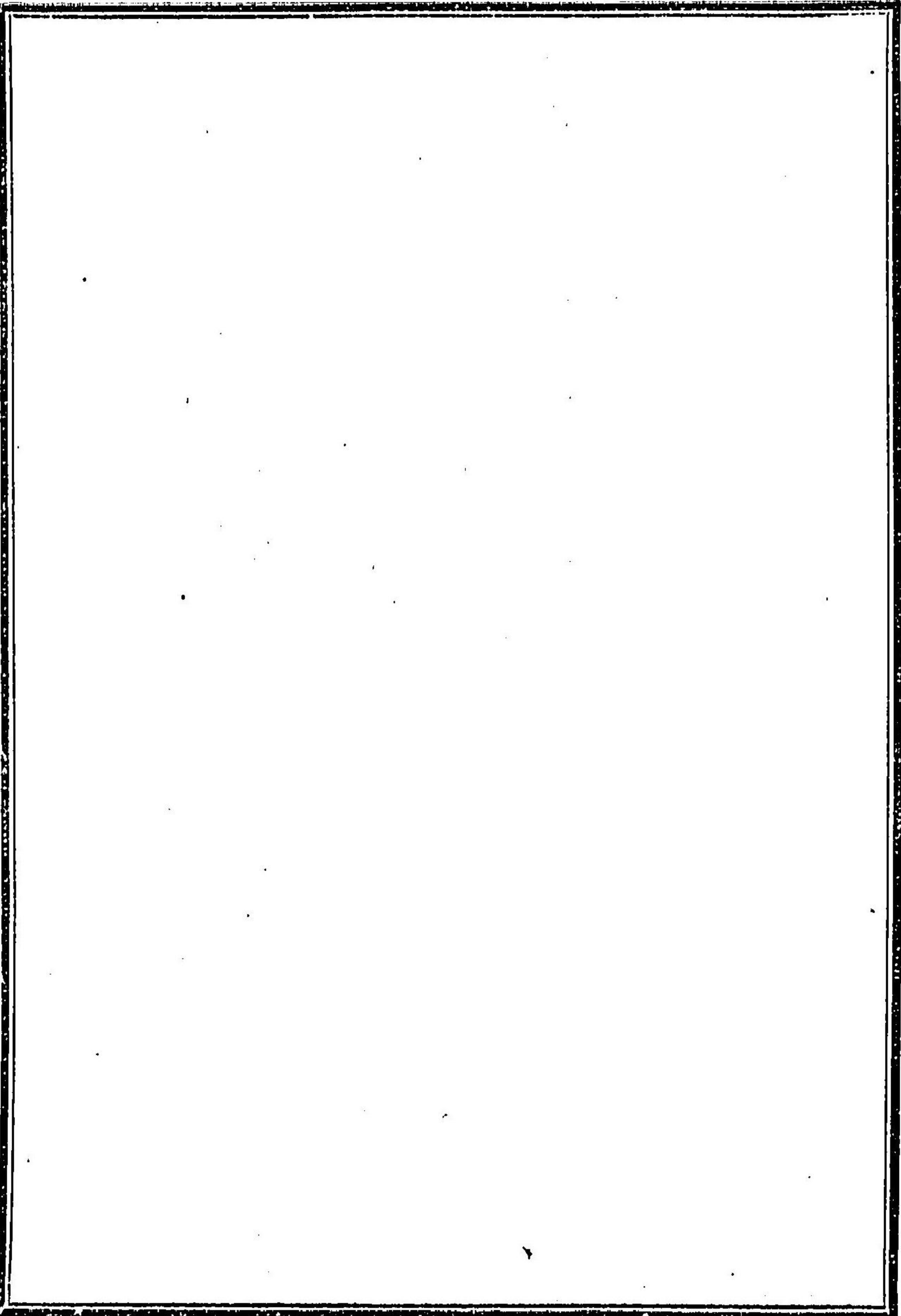
明治十五年
新年式

官省院使

府 縣

一日	午前五時	四方拜
	同 七時	親王同妃並官内省勅任官同夫人同省奏任官於内廷拜賀
	同 八時	同 皇太后宮へ拜賀
	同 時	大臣參議諸省卿以下在京勅任官同夫人並齋香間祇候同夫人等拜賀
	同 九時	同 皇太后宮へ拜賀
	同 十時	在京文官奏任武官六等以上拜賀
	同 十一時	但非職並後備軍艦員六等以上奏任武官同上
	同 時	同 青山御所へ參賀
	午後一時	判任官各廳へ參賀
	同 二時	在京七等已下奏任武官拜賀
二日	午前七時三十分	但非職並後備軍艦員七等以下奏任武官同上
	同 八時三十分	同 青山御所へ參賀
	同 十時	在京非役從六位以上同勅六等以上ノ輩拜賀
	同 九時	但退職罷役武官從六位以上同勅六等以上ノ輩同上
	午後一時	各國公使同夫人拜賀
	午後二時	非役正七位以下同勅七等以下ノ輩地方廳へ參賀
		但退職罷役武官正七位以下同勅七等以下ノ輩同上
		御雇外國人並勅六等以上外國人拜賀

三日	午前九時	元始祭
四日	午前九時	賢所 皇靈 神殿等 御親祭
		政始
五日	午前十一時	先奏 神宮之事
		新年宴會
七日	午前十時	親王大臣參議諸省卿以下在京勅任官齋香間祇候並各國公使宮中ニ於テ賜フ
十六日	午前十時	在京奏任官各廳ニ於テ賜フ
二十日	午前十時	在京有位華族ハ部長局ニ於テ賜フ
二十一日	午前十時	陸軍始
		元老院開院
		在京神官奏任以上及神道後海職六級以上拜賀
		在京各宗教道職六級以上拜賀



太政官第五十九號
地租改正
事務停止

二十二年法律第十
三號
地券
事務停止

地租改正事務局 達

(地租改正事務局ハ内務大臣所管ニ置カレタルモ其法令ハ各省同様而賦課ノ付シテ布告セシメテ以テ特ニ掲載ス)

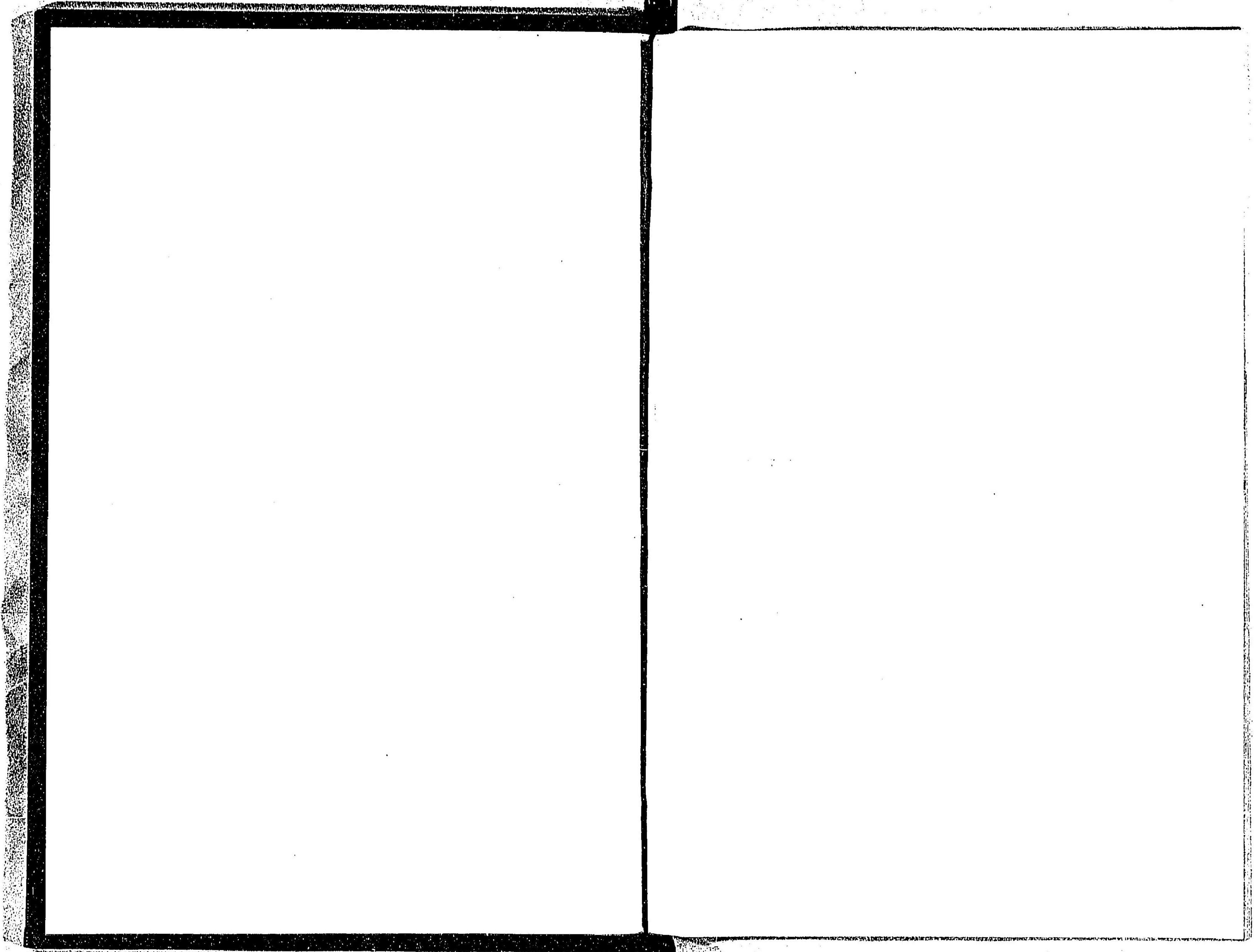
○乙第一號 (六月八日 内務卿大臣訓達)

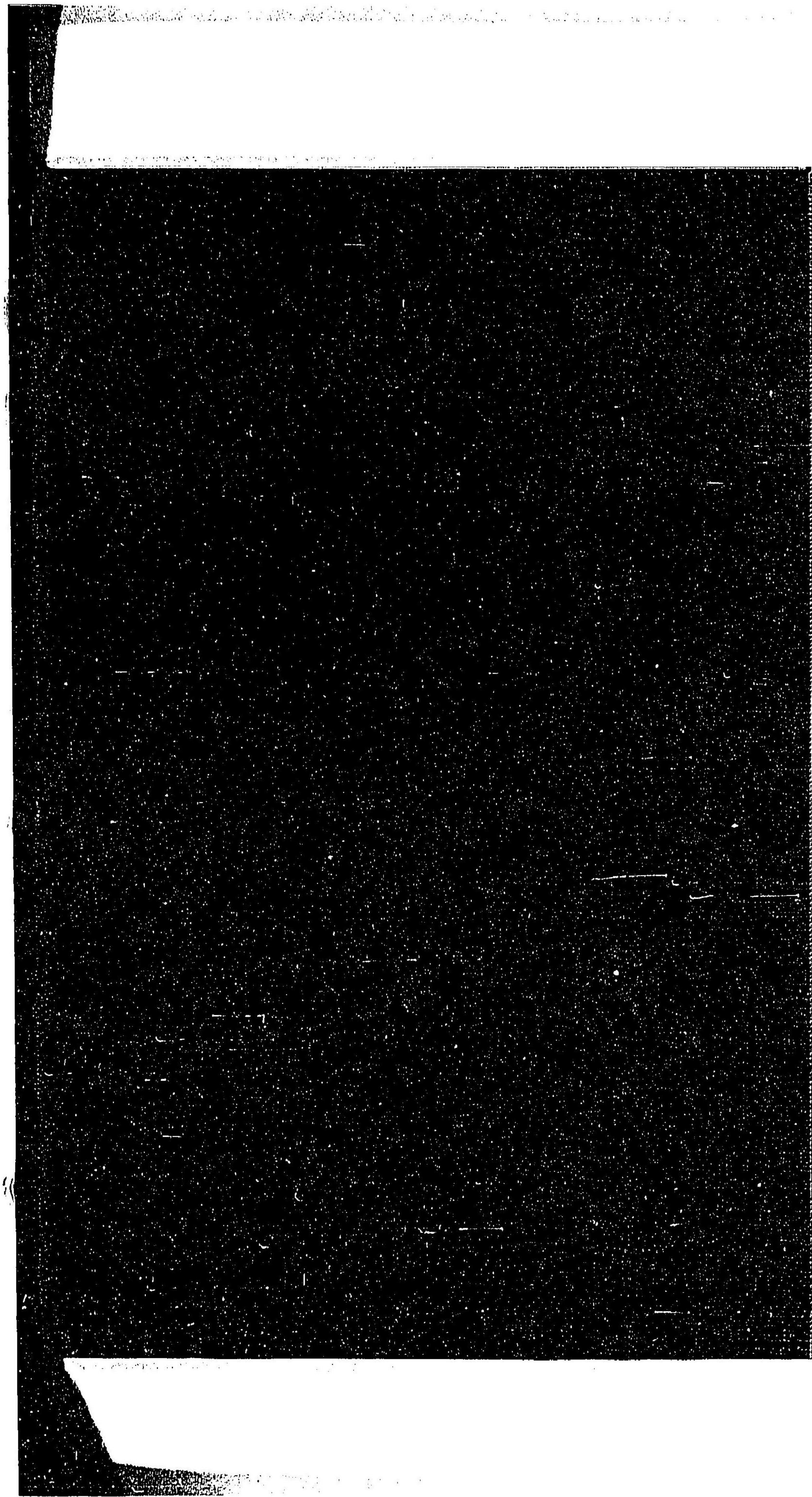
府 縣 沖 除 縣

地券用紙之内印刷損シ書損及ヒ不用反古紙拂下ケ代金處分之儀地租改正事務局客年乙第四號ヲ以テ相違置候處右者一旦府縣廳へ爲和納地方稅雜收入へ編入一般之經費ニ充候儀ト可相心得此旨相違候事
但是迄地租改正事務局ヨリ指令済之向モ右ニ照準可取扱事

777R-388

3070
2





031130-016-4

CZ-4-1

法令全書 慶應3年10月-明治45年7月

内閣官報局

M20-45

BBC-0975



